

【展示物名】 ホタル展示室（ホタル幼虫・水生昆虫）

【該当する学年】

小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
----	----	----	----	----	----	----

【学習指導要領】

エネルギー	粒子	生命	地球
-------	----	----	----

<小学校6年>

(3) 生物と環境

動物や植物の生活を観察したり，資料を活用したりして調べ，生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

<中学校2年・3年>

(3) 動物の生活と生物の変遷

生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また，動物などについての観察，実験を通して，動物の体のつくりと働きを理解させ，動物の生活と種類についての認識を深めるとともに，生物の変遷について理解させる。

ア 生物と細胞

(イ) 無脊椎動物の仲間

無脊椎動物の観察などを行い，その観察記録に基づいて，それらの動物の特徴を見いだすこと。

(7) 自然と人間

自然環境を調べ，自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに，自然と人間のかかわり方について認識を深め，自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。

ア 生物と環境

(イ) 自然環境の調査と環境保全

身近な自然環境について調べ，様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに，自然環境を保全することの重要性を認識すること。

【写真】



【水生昆虫水槽(左)とホタル幼虫水槽(奥)】

【ホタル幼虫の棲息環境を再現した水槽】

【展示物の説明および学習内容（ねらい）】

- ☆ 展示室の飼育用水槽では，年間を通してゲンジボタルの幼虫や幼虫のえさとなるカワニナを飼育している。また，展示パネルにてホタルの生態や宮崎市内のホタル保存会の活動地域を紹介している。宮崎市役所環境保全課および宮崎市ホタル保存会の協力を得ながら運営している。
- ☆ **小学校6年「自然とともに生きる」**では，生物と環境のかかわりを調べる学習活動において，実際に生きている水生昆虫を観察することを通して，水生昆虫を中心とした視点から**環境問題を考える**ことができる。
- ☆ **中学校2年「動物のくらしやなかまと生物の変遷」**では，昆虫類の体のつくりや運動の仕組みについて，実際に見学しながら学習することができる。
- ☆ **中学校3年「自然と人間」**では，大淀川とその流域に棲息する水生昆虫の実物を見学し，その個体数や種類の変遷を知ることを通して，**河川環境を保全することの重要性に気づく**ことができる。